

E.T.C. 「教育をタイムリーにチェンジする」



長野県総合教育センター通信

しののめ

2019/02/14
(平成31年02月号)
第118号

〒 399-0711 長野県塩尻市大字片丘字南唐沢 6342-4 (企画調査部)

TEL (0263) 53-8802 FAX (0263) 51-1290 E-mail : kikaku@edu-ctr.pref.nagano.jp

目次

次年度の研修講座構築から	1
単元をつくろう⑩英語編	2
「春休みの課題帳」のご活用を!	3
研修講座から	4

次年度の研修講座構築から

現在、総合教育センターでは次年度の講座運営に向けて様々な準備を進めています。その一端をご紹介します。



E.T.C.からQOLへ

・これまで、E.T.C.を掲げ教育をタイムリーにチェンジすることを目指してきました。これを引き継ぎつつ、学びの質を向上することを視点として、QOL (Quality Of Learning)を掲げます。

研修講座案内の特集ページ

・研修講座案内では、文部科学省、国立教育政策研究所から講師招聘する講座の一覧を設けます。中央の情報を直接研修いただけます。
・これまで同様、大学・大学院との連携講座のページをはじめ、様々な分野のたくさんの研修講座をご案内します。

教職員研修会サポート

・センターの希望研修を受講いただいた教職員が、帰校後に講師となって校内研修を進める際のサポートとなります。校内研修と合わせ希望研修のお申し込みをご計画ください。
・「チーム学校」の連携・協働・組織的対応に向け「同僚性を発揮する」学校文化の醸成をサポートします。

単元をつくろう⑩



ミガコ先生

生徒が、習った表現を使って、お互いの考えや気持ちを伝え合う力をつけるために、単元構想で気を付けることはどんなところですか？

1つ目は、導入段階で、自然な場面・生徒の必要感につながる場面設定のもと、新出表現の意味と使われ方を捉えること。

2つ目は単元内で、また、単元が変わっても繰り返し活用することです。



つなぐ先生

【単元構想のポイント】

新出表現の導入では、「意味」と「使われ方」を捉え、その後、「形」を捉えるようにしましょう！

※いきなり文法説明から始めると活動へのつながりもつらいですね・・・。

単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善(例)

【学 年】 中学校第2学年

【単元名】 Lesson 6 "My Dream" [New Crown 2] (9時間扱い)

【育成する資質・能力】

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】
2(1) ア(オ) 文における基本的な区切り 2(1) エ(カ) g 「to 不定詞」	2(2) イ 日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして得られた情報や表現を、選択したり抽出したりするなどして活用し、話したり書いたりして事実や自分の考え、気持ちなどを表現すること。

【主な学習活動と留意点】

前単元からのつながり： Lesson 5 "Uluru"で、意見文を読み、好きな国について発表をした。
・意見文を読み、活用できそうな表現を抽出した。 ・伝えたいことを整理して、発表した。

働かせる見方・考え方：英語のスピーチの特徴に着目して、情報を整理しながら考えを形成し、再構築すること。

時	学習活動	留意点
1	1 オリエンテーション ・単元の内容を知り、見通しをもって Lesson Goal を設定する。 Lesson Goal: 「将来の夢」について、分かりやすく友だちに伝えよう	単元の見通しをもつ場面 ☞生徒が先登のスピーチのビデオや作品等から気付いたことや感じたことを生かして、Lesson Goal を設定しましょう。
2	2 意見文によく使われる語彙や不定詞の用法の理解と練習を行う	スピーチをする際の表現に必要な知識・技能の定着を図る場面 ☞教科書の本文等を効果的に使用し、新しい語彙や表現を理解したり使用したりする場の工夫をしましょう。
3	3 将来の夢についてのスピーチ原稿を読む	スピーチ原稿の構成や工夫について考える場面 ☞体験や理由等の記述に注目し、書き手の工夫について、考えるように促しましょう。
4	4 将来の夢について伝える	「将来の夢」についてスピーチをする場面 ☞事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて話すことができるようにしましょう。
5	5 発表を振り返る	自分の学びを振り返る場面 ☞スピーチを言語面と内容面から振り返り、英語を使って感想を伝え合えるようにしましょう。 ☞学びのよさを自覚する場を設けましょう。

次単元へのつながり： Lesson 7 "Presentation"で、説明文を読み、プレゼンテーションをする。
・説明文の工夫点に注目して読む。 ・調査結果を基に、プレゼンテーションをする。

☞モデル作品やスピーチの映像を提示することで、単元の目標を意識しやすくなります。

☞ [導入]→[言語活動]で終わらせず、
[導入]→[言語活動]⇄[指導]

ここを繰り返すことで表現の定着が図られます。

例(「将来の夢」をテーマにした対話活動後の指導例 S:生徒 T:教師)

S: I want to 甲子園に出たいってどう言うのかな？

T: What do you do there?

S: play baseball.

T: So, I want to...

S: I want to play baseball.

T: In...

S: I want to play baseball in Koshien.

(その後、ペアを替え、もう一度対話をする)



☞「原稿を書く→話す」という順番にすると、生徒が原稿から目が離れなかったり、原稿の丸暗記の発表になってしまったりします。「話す→話したことを書く」という順番にすると、生徒は表現の間違いに気付いたり、より相手に伝わりやすい内容へと修正をしたりすることができます。原稿を書いてから話すという流れを変えてみましょう。

研修講座から

フィールドワークを通して学ぶ信州学・総合的な学習の時間

～地域に足を運び、取材し、発信する体験～（11月22日）

この講座は、信州学や総合的な学習の時間の改善に向けて開講され、16名が受講しました。

<講座のねらい>

ワイナリーや農家や市役所を取材する体験を通して、郷土を舞台とした信州学・総合的な学習の時間のあり方を考える。

<講座の主な内容>

講義「フィールドワーク入門」

演習「フィールドワーク」

1班 塩尻市役所産業政策課、ブドウ栽培農家

2班 信濃ワイン株式会社

3班 ブドウ栽培農家

演習「フィールドワークの成果を発信」

長野大学環境ツーリズム学部

教授 市川 正夫

長野県総合教育センター専門主事

高橋 廣貴

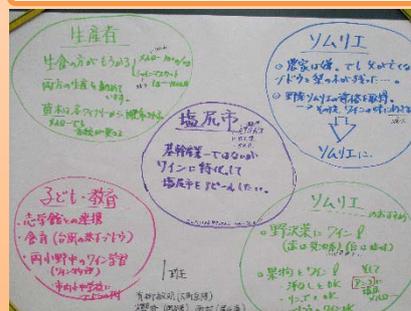
倉田 慎司

向井 真弓

◆◆◆感想の抜粋◆◆◆

- ・市川先生のお話が多岐にわたり、知的好奇心が引き立てられるお話でした。
- ・ヒントになる講義をありがとうございました。
- ・直に現場に立つことの大切さを改めて感じました。
- ・不思議に思ったことを追究していくことの大切さを改めて感じました。
- ・市の職員の方、ソムリエの方の市に対する熱い思いが感じられました。
- ・信州学についてもっと知りたいと思いました。
- ・グループ内協議ではそれぞれの視点が違って面白かったです。
- ・発表の仕方や着眼点について、多様な方法があることが分かった。

当日の成果物から



産業教育の教材探究と主体性を育む指導～研究成果を生かした授業改善を考える～（1月25日）

この講座は、次のようなねらいで開講し、18名が受講しました。

<講座のねらい>

- ・産業教育実践研修ならびに教材探究の研究発表から、生徒の興味関心を高める指導法を考え、自身の日々の授業改善につなげる。
- ・新学習指導要領を見据えた教材と、ICT活用についての取組を共有する
- ・教育課程研究委員の発表から、新学習指導要領に向けた産業教育の現状と課題を理解する。

<講座の主な内容>

- 1 研修成果発表 産業教育実践研修（各教科1名が20日～30日にわたり研修し、その成果を発表しました。）
 - ・農業科：持続可能な農業を学ぶ実験教材の開発
 - ・商業科：商業教育におけるPBL実践
 - ・工業科：生産設備設計における「学ぶ力の醸成」についての考察
- 2 研修成果発表 産業教育教材探究（各教科4名のグループで研究し、その成果を発表しました。）
 - ・農業科：教科「農業」における対話的学びを進める教材の研究
 - ・工業科：工業技術教材の研究
 - ・商業科：ICTを活用した主体的・対話的で深い学びの実現
 - ・家庭科：デジタル教材の充実、活用、発信と改善
- 3 研究発表 教育課程研究委員会（農業、工業、商業の3教科の研究委員が発表しました。）

◆◆◆感想の抜粋◆◆◆

- ・最先端の学習とともに基本の技の定着をはかる、そのバランスの大切さを感じた。
- ・主体的、対話的で、深い学びについて、どのような指導・教材が適しているか多くの実践例にふれ、自分の授業展開に生かしていきたい。
- ・他教科の先生方の発表をお聞きして、身近な教材から実際の社会に目を向けた教材などを用いた授業実践が案外楽しかった。もっと実際の社会の中から題材を見つけて、教材や実践ができればいいと思った。

当日の様子

